

今回のリサーチで、私は最後の質問である「あなたにとって音楽とは何ですか？」という非常に抽象的な質問の分析を担当した。この質問を聞いた狙いを、まず最初に述べたい。音楽の受け取り方は近年多様化して、様々になっている。それはよく、CD/サブスクリプション/YouTubeなどと物理的な言及をされることが多い。しかし、物理的な変化に伴って、心理的な変化も起こっているのではないかと考えたのが、この質問の意図である。かなり大まかで個人的な質問であったため、誰一人として同じ回答はなかった。しかし、大体の枠組みで判断して、分類を行なった。

一番多かったのが、「人生に欠かせない」という回答だった。「生きる上で必要不可欠」や「生きる糧」という回答も含む。また、タワーレコードのキャッチコピーである No music No life という回答が3票あった。これはタワーレコードの影響力の強さもわかるだろう。音楽がないと生きていけないという考えは、音楽がない生活を想像できない、とも言えるだろう。それほど音楽は身近なものになったのだ。これはスマートフォンに対する意見とも関連づけられる。スマホのない生活を想像し難い今、音楽もスマホ媒体で聴くことが多いため、このように「人生に欠かせない」という回答が多かったのではないだろうか。

次に多かったのが、「元気になる」という感情面の回答である。「暗い気持ちを吹き飛ばす」「明るくなれる」というポジティブな回答が並ぶと同時に、「泣きたい時に泣ける」というネガティブな感情の言及もあった。感情に関しては歌詞が大きな影響をもたらさそう。元気付けられるエネルギッシュな歌詞や、気持ちを代弁してくれるようなセンチメンタルな歌詞まで、多くの人が歌詞を通して感情の変化を体験していることがわかる。

3番目に多かったのは、感情、気分をコントロールするものという回答だ。これは2番目の回答と似ているが、コントロールというと、自分の感情を抑えるような働きがあるため、このように回答を分けた。2番目の「元気になる」というのは、感情を解放するのに対し、3番目の回答「コントロールする」は正反対の回答だろう。

4番目以降は同数回答だった。「友達」という回答は非常に興味深い。音楽は当然姿形のないものであるが、そんな音楽を擬人化し、「友達」と表現することは、音楽への身近な気持ちが伝わる。その意味で、「身近にあるもの」という回答も関連するだろう。友達のように常日頃身近にあるという回答は、音楽への距離の近さを感じさせられる。また、「趣味」と答える人がいる一方で、「芸術」と答える人もいるなど、この回答を見るだけでも捉え方が多様化していることがわかる。「芸術」は趣味の範囲を超えている回答だ。これは音楽が持

つ芸術性にも留意した結果の回答だと考えられる。その他の回答には、「エンターテインメント」「想像の源」「自由」「影響を与える」「他の世界観に没入」などがあった。

以上の分析から、分かったことを3点述べたい。

### 1 捉え方が多様化している

これは質問の意図である心理的な変化が起きていることを証明できる発見だったと思う。それぞれが異なる方法で音楽に触れて、それぞれ心理的に異なる受け取り方をしていることがわかる結果になった。

### 2 音楽は人生に欠かせない

「人生に欠かせない」が一番多い回答になったことから、改めて音楽が私たちの生活に大きな存在感を持っていることがわかる。これは分析欄にも述べた通り、スマートフォンの使用とも密接に関連しているだろう。音楽を聴く時間も同時に増えていると予想できる。今後また機会があったら、時間との関わりについても調査をしたい。

### 3 音楽への肯定感

この項目に否定的な回答は全くなく、音楽に対する明るい意見が多かったのが印象的だった。「クリエイタービジネス論」履修者であることも大きく影響しているとは思いますが、国際日本学部、日本全体、世界全体に調査を拡大しても、音楽が嫌いと答える人は少ないのではないだろうか。それほど音楽は身近なものになり、多くの人に受容されている。音楽を聴くスタイルや、流行るジャンル、業界のあり方などは変化していくが、音楽というものがなくなることはないのではないだろうか。音楽の明るい未来を見出せた。